

注文住宅全棟 省エネ型に転換

北洲、東北大と性能測定

「パッシブハウス」は、材の約2倍の断熱性を持つと比べ、冷房や給湯、照明として展開することにし（3・3平方メートル）当たり約66万円から（仙台エリア）と、従来型と比べ、年間売上高は約160億円（2016年8月期）で、注文住宅の売上構成比は4割強を占める。

「パッシブハウス」は大屋根で深い軒を作るなど省エネを重視したデザインを採用した。大屋根を作ることで遮熱性能が向上。窓についても日射を吸収しやすく、冬季は室内を温かくする効果を持たせた一方、遮熱効果のある網戸やブラインドなども活用し、夏季は日射を遮れるようにした。

同社は今年春、仙台市内（今年7月、家電製品は換気扇のみ運転）では、「プレミアムパッシブハウス」と名付けた実証住宅を建設。東北大と共同で室内温度の変化や、消費電力の測定などを行った。その結果、同社の従来型の注文住宅棟を「パッシブハウス」に「プレミアムパッシブハウス」と名付けた実証住宅を建設。東北大と共同で室内温度の変化や、消費電力の測定などを行った。その結果、同社の従来型の注文住宅棟を「パッシブハウス」

と比べて冷房や給湯、照明として展開することにし（3・3平方メートル）当たり約66万円から（仙台エリア）と、従来型と比べ、年間売上高は約160億円（2016年8月期）で、注文住宅の売上構成比は4割強を占める。

消費量3割減 高断熱建材を使用

住宅メーカーの北洲（宮城県富谷市）は高い断熱性能などを備えた省エネ住宅「パッシブハウス」を本格展開する。同社が手掛ける注文住宅全棟を同タイプに転換する。「パッシブハウス」は断熱性能の高い建材などを使用、エネルギー消費量を従来より3割程度削減できるという。価格は従来の注文住宅と同水準とする。性能測定では東北大も協力した。



北洲は実証住宅「プレミアムパッシブハウス」で性能測定を続けてきた